

えひめゴミプロジェクト

カワイイのぼり旗でゴミを減らそう！～長浜から愛媛へ～



重松 そら

愛媛県立長浜高等学校

えひめゴミ0プロジェクト

カワイイのぼり旗でゴミを減らそう！～長浜から愛媛へ～



重松 そら

活動概要

私たちは、大きく二つの活動を行った。①長浜ゴミ0プロジェクトでは、長浜港湾緑地に10本ののぼり旗を設置し、8/9～10/31の間、12週に渡り1週間おきに旗の設置・撤去を繰り返し、ゴミの量(可燃ゴミ、ビン・缶、ペットボトル)を分析して旗の効果を検証した。その結果、のぼり旗を立てた途端に急激にゴミが減少し、秋の釣りシーズンに少し増加したが全体に低めで推移した。また、手軽にポイ捨てしやすい瓶・缶、ペットボトルは、のぼり旗がない時には増加し、のぼり旗があるときに減少する傾向がみられた。

②大洲ゴミ0プロジェクトは、一般市民を対象に調査エリアを県内に広げて9/15～10/31の間募集した。参加者の都合の良い4週間で、私たちと同様に旗の効果を検証するため、旗を立てない週と立てる週を1週間ごとに設定し、その間のゴミの量を計測いただいた。参加者には、新たに制作したのぼり旗とポール、ゴミの計測のための秤、調査用紙を渡し、調査方法などについては私たちが直接説明した。また、新たに作成したのぼり旗の吹き出しは空欄とし、参加者に自由なメッセージを書いていただいた。現在調査中で、一部の調査結果では、旗ありでゴミの量が半減した。

なぜこの実践活動に取り組みましたか？

私たち1年生28人は4人程度の班に分かれ、長浜町内のパン店や電気店、商工会議所などに出向き、各事業所や個人、地域が抱える課題についてヒアリングを行った。その結果、公園などのゴミ問題が深刻であることを知った。私たちは毎年夏休み前に長浜港湾緑地(公園)や海水浴場で清掃活動を行う。防波堤には「ごみすて禁止」と大きく描かれているが、防波堤とテトラポットの間からは、空き缶やペットボトルなど、たくさんのゴミが出てくる。それらのゴミは劣化していないことから、海から流れ着いたものではなく、心無い誰かによって捨てられたものと推測される。ゴミを拾う人と捨てる人、なぜこのような違いが生まれるのだろうか。私たち4人はゴミ問題を地域の課題と捉え、捨てられるゴミを減らすことを目標に活動することにした。のぼり旗による長浜港湾緑地でのゴミ0プロジェクトは、昨年先輩たちから始まったが、開始時期が10月下旬からだったことから、今年は観光客の多い夏場から活動を開始し、データをとりたい。さらに今年は、一般市民にも参加いただき、活動の輪を大洲市、愛媛県に広げたい。そしてゆくゆくは、全国、世界へと広げていきたいと考えている。

課題を解決するためにどのような仮説を立てましたか？

①長浜ゴミ0プロジェクト

のぼり旗を立てていない週はこれまでと変わらない量のゴミが回収され、立てた週はのぼり旗による抑止効果でゴミの量が少なくなると予想した。そして、これを継続するうちに、のぼり旗のない時もあるときも全体としてごみの量が減るのではないかと予想した。さらに、昨年の調査は10月下旬から年末にかけての調査だったが、今年は8月上旬から開始し、昨年より4週間長く調査するので、新しい調査結果が得られると考えた。

予定では、調査期間を昨年と同様の8週間(8/9～10/3)としていたが、地域の方から延長して欲しいというリクエストがあったことや、10月は釣りシーズンで公園への来場者が増えることから、調査期間を4週間延長することで地域の方の期待に応えるとともに、興味深い結果が得られると考えた。

②大洲ゴミ0プロジェクト

参加者にはかわいいのぼり旗セットがプレゼントされることから、先着10組の参加者枠はあっという間に埋まると予想した。また、私たちが調査した長浜港湾緑地以外の場所でも、同様にのぼり旗を立てていない週はこれまでと変わらない量のゴミが回収され、立てた週はのぼり旗による抑止効果でゴミの量が少なくなると予想した。

先着10組の参加者枠はあっという間に埋まると予想したが、実際には当初想定していた募集期間(9/15～10/15)の終わりが近づいても、応募者は0であった。そこで募集期間を10月末まで延長するとともに、募集の告知を新たに新聞紙面や海と日本プロジェクトホームページなどで行うことで、参加者が増えると考えた。さらに、当初調査対象エリアを大洲市内としていたが、愛媛県全域に広げることにした。

実践活動では(自身の役割の中で)どのようなことを意識しましたか？またどんな工夫をしましたか？

私は班長として班員の意見をまとめ、みんなが気持ちよく活動できるよう心掛けた。私は地元長浜に住んでいるが、他の班員は市外や県外から長浜高校に入学した生徒なので、この長浜のことはあまり知らない。だから地域の方との交流や土地勘が必要な調査地選びなどは、私が率先して行おうと意識して取り組んだ。

ゴミを減らすために、最初はゴミ捨て防止のための意識啓発ポスターなどを制作しようかと考えていたが、現在もごみのポイ捨て禁止を呼びかける掲示物は設置されており、これでは十分な効果が得られないと考え、のぼり旗を使用した。のぼり旗には、長浜を舞台に実際の水族館部の日常や長浜の風景が綴られている漫画「熱帯魚は雪に焦がれる(愛称:はにがれ)」の作者である愛媛県出身の萩莪まこと様にイラストを提供いただき使用した。

また、私たちの活動に対して来場者がコメントを残せるようにするため、ホワイトボードで作ったメッセージボードをのぼり旗の近くに設置した。県外からも「はにがれ」のファンが訪れると予想し、どこから何人訪れたのかを記入できるように、大洲市内・県内・県外に分けて正の字で記入できるようにした。

私たちの活動は、より多くの人に活動を知っていただくことでその効果が上がると考え、プレスリリースを行うなど、積極的にメディアに情報発信を行った。県内一般市民に参加を呼びかける「大洲ゴミ0プロジェクト」では、メディア各社にプレスリリースするとともに長浜高校ホームページなどで参加者を募集した。案内チラシと長浜高校ホームページに、QRコードを添付して応募サイトへ誘導し、MicrosoftのFormsを活用して応募手続を行っていた。今年から県内の高校生には一人1台のパソコンが貸与されたため、これを最大限活用し、案内チラシや応募サイトの作成を生徒で分担して行った。

愛媛新聞

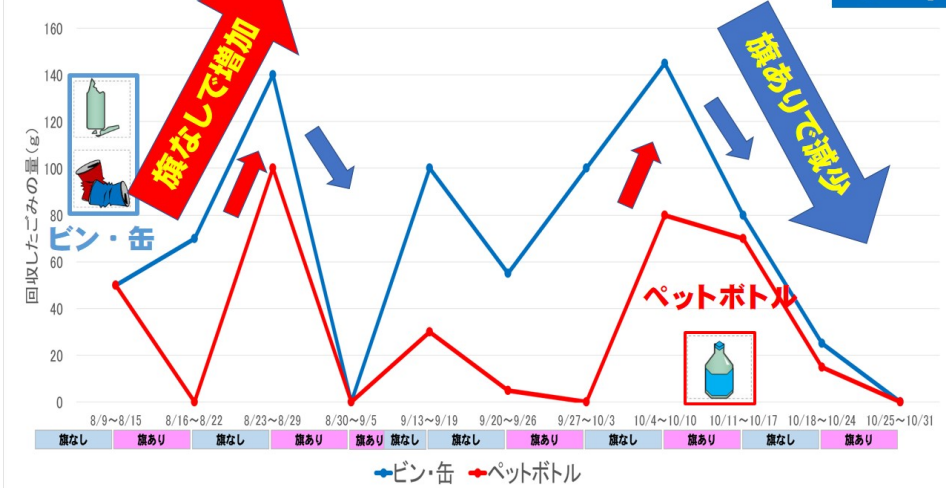
投稿欄

2021年10月9日

(掲載許可番号: d20211013-07)

ポイ捨て防止活動を広げて
大洲市 重松 そら 16
「伊予灘に面した、りりりでにぎわう夕日の、洲市の長浜港湾緑地は美しい場所。だが地元、船公園の愛称で親の方が清掃し始めた。長浜水族館の活動も地元長浜から大洲市へ、さらには愛媛県へ広げていきたいと考えている。」
「熱帯魚は雪に焦がれる」の作者、萩莪まこと氏が提供したイラストが描かれたのぼり旗が、大洲市で配布された。

「この旗が目につく、これ地域の課題だと考え、私長浜、高校生は昨年ののぼり旗を捨てたためのもじを捨てたい」と、大洲市へ、さらには愛媛県へ広げていきたいと考えている。萩莪まこと氏(高松市)が提供したイラストが描かれたのぼり旗が、大洲市で配布された。



(自身の役割の中で)実践活動を通して考えたこと、学んだことは何ですか？

大洲ゴミプロジェクトでは、一か月以上応募ページからの受付を行ったが応募は来なかった。学校のホームページなどはやはり限られた人しか見ず、取組としての知名度もまだまだなところがあるため仕方ないとも思ったが、アドバイスで言われていたように、自分たちからさらにこの活動を多くの人に伝え、応募してもらう努力が必要だと考えた。そこで、まずこの取組を多くの人に知ってもらおうと思い、愛媛新聞の投稿欄に、この活動の説明や私たちの地域課題に対する思い、そしていま応募を受け付けていることを投稿し、掲載していただいた。数日後その掲載に対するお返事が同じ投稿欄に載っており、少しでも私たちの活動が知ってもらえたのだと嬉しく思った。

応募受付期間終了が迫ってきたとき、伊予銀行長浜支店長様と、大洲の地域観光に関する企業であるキタマネジメント様から応募をしていただいた。私の投稿に共感いただくとともに、長浜町内の方からのお声かけがあったことが、応募のきっかけとなったそうである。大洲の企業と連携してこの活動が行えるというのは、目標であった自分たちの活動が大洲にも広がるということであり、とても嬉しかった。新聞に投稿して本当に良かったと思う。私たちは、伊予銀行長浜支店長様とともに活動に参加していただく地元スーパーのショッパーズ長浜店様、そして、大洲市内の河川敷で老人会とともに、活動をしていただくキタマネジメント様へ足を運び、のぼり旗を渡し、調査方法などを伝えた。ショッパーズ長浜店では、店長さんとお話をして旗を立てる場所を決めた。現在ではどちらの団体にも調査を続けていただいている。公園での調査と同じように、1週間ごとに旗なし、旗ありで調査していただき、これまでの結果を教えてくださいました。旗なしの1週目と旗ありの2週目を比べると、可燃ゴミが70gから35gに、家庭ゴミが257gから150gに半減していることが分かった。

OR合宿を通じて理解したこと、できるようになったことは何ですか？また、それをどのように実践活動に活かしましたか？

2日間のオリエンテーション合宿では、ホームページに掲載する、②大洲ゴミプロジェクトについての募集文書と、その応募ページについての話し合いを行った。班のみならず、見る人によりわかりやすい表現になるように、そして応募しやすくなるように考えながら掲載内容を決定した。今まで自分で人に見てもらったページなどを作ったことはなかったため、初めて見る人の目線はどういう文章がいかを考えた。自分たちで掲載ページを一から考える経験で、その難しさ、見る人の立場から深く考えることの大切さを学んだ。

また私たちの班は、実際に旗を立てる予定の公園へ足を運び、ゴミのポイ捨ての現状や、どのような場所にゴミが多いかなどをリサーチした。公園にいた方には、インタビューを行い、公園のゴミ問題について情報を集めた。すると、私たちがゴミがたくさん落ちているだろうと予想していた場所には、タバコや空き缶などのゴミが多いことが分かった。そして、ゴミの量だけでなく、公園の広さや見通しなど実際に現場に行ってみないとわからない情報も得られた。その情報をもとにのぼり旗をどこに立てれば効果的に人に見てもらえるか、遠くからも見えるかを考え最終的に旗を立てる場所を決定した。自分たちで見に行ってみないとこのようなことは分からなかったで、聞いた情報だけでなく実際に現場を訪れ、自分で見て調べることが大事だと学んだ。また、公園にいた方から、毎朝婦人会の方が清掃活動をされていることなども分かった。そして、婦人会の方々とともにこの活動を行うことにつながった。

オリエンテーション合宿で掲載ページについて話し合いをしていたときに、愛媛大学の前田先生から「応募してもらうために、自分たちからアポをとる必要があるかもしれない」とアドバイスをいただき、確かに応募がなかなか来ないときは自分たちから何か呼びかけなどをしたほうがいいと思った。そして、最終的に応募者が集まらなかったときには、婦人会の方や、地域の方に相談することで応募につなげることができた。

今回の体験を踏まえ、今後、どのように社会・世界と関わり、より良い人生を過ごしますか？

この実践活動を通して、自分たちで企画した取組を実現までもっていくのは、すごく大変で労力がかかることなのだと思う。しかし応募していただいた大洲の企業の方と電話でお話をしていた際に、私が応募していたきき本当にありがたいと感謝をつたえていると、企業の方も、「こちらこそ地域観光に関する会社だからこのような活動にはぜひ参加したい。こちらこそありがとう。」などの言葉をいただき、私たちのこの活動には価値があったんだと実感した。それと同時に、この取組は、昨年に続いて今年も緑地公園のゴミのポイ捨て量を実際に減らしたという実績も出ているため、今後さらにポイ捨てに困るいろいろな場所で行って欲しいと思った。そのためにはやはり地元長浜、大洲、愛媛県と、私たちの近くだけにどまらないたくさんの方からの参加を呼び掛ける必要があると考える。

公園でゴミ拾いを行っていた時、婦人会の方から、老人会の方たちが最近駅の清掃を行っていると聞いた。また、私たちがのぼり旗を立てて活動を行っている緑地公園の利用者で、いつもランドゴルフを行う方たちが、公園内の草刈りを自主的に行うようになっているという。婦人会の方は、このようなことは今まで行われていなかったため、あなたたち高校生の活動の姿に刺激を受けて始めたのではないかと話されていた。このお話を聞き、自分たちの活動が知らないうちに地域の人たちに良い影響を与え、少しずつ地域を動かしているという実感を得て、心がぼっと温かくなった。そういう意味でも、私にとってこの活動を行った意義は大きいと思う。

今回の取組は、積極的なアピールをし、応募者を募ることが一番の難関だった。呼びかけなどを行ったがなかなか応募は来ず、県内でゴミ拾いなどを行っているボランティア団体はないか探してみたら、適当な団体は見つからず、うまくいかなかった。今回応募していた2団体が応募に至ったのは、両団体が積極的に地域に関わってこういう姿勢があったからだと思う。自分もこの人たちのように、様々な物事を前向きにとらえ積極的に取り組んでいきたいと思った。また、今回の調査を伴う取組は、個人や企業にとってはかなり敷居が高かったのかもしれない。高校生の自分たちだからこそ、地域のゴミ問題という課題にここまで真剣に取り組めたのだと思う。しかし、もし企業だったとしてもこのような活動を地域と連携して行えば地域貢献もでき、信頼関係の築きにつながると感じた。自分が将来働くときは、この経験を忘れず利益の追求だけでなく積極的に地域とかかわりを持つようにしたい。



所属学校名 愛媛県立長浜高等学校 1年
学校所在地 〒799-3401 愛媛県大洲市長浜甲480-1
活動者氏名 しげまつ そら
重松 そら
E-Mail zhongsongsora@gmail.com

1. 地域探究アワードエントリー情報

プレゼン審査希望	有		
エントリー単位	グループ		
グループ審査の班員	氏名①	下山 留奈	氏名③
	氏名②	島崎 優希	氏名④
プレゼン審査希望会場	四国		

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

OR合宿先	国立大洲青少年交流の家
OR合宿参加期間	2021/7/29 ~ 2021/7/30
OR合宿で実施したフィールドワークの内容	調査予定地である長浜港湾緑地の予備調査(調査地全体像の確認調査範囲の決定、ゴミの量と種類の確認、のぼりばた設置場所の決定)、長浜婦人会や長浜港務所や地域住民へのヒアリング。

実践活動期間	2021/8/1 ~ 2021/11/30		
実施体制		主な協力者	協力内容
	所属	愛媛大学 社会連携推進機構	オリエンテーション合宿、実践活動時の助言
	氏名	前田 眞	
	所属	国立大洲青少年交流の家	オリエンテーション合宿、実践活動時の助言
	氏名	国立大洲青少年交流の家 の皆さん	
	所属	一般社団法人キタ・マネジメント	大洲市内河川敷公園内での、のぼり旗の設置による調査
氏名	一般社団法人キタ・マネジメント の皆さん		
協力者総数	27名		

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 40 日

①事前学習・打合せ	5日
②実践活動本番	25日
③事後打合せ・報告会等	10日

(2)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
8/2 ~ 8/6	①事前学習・打合せ等	長浜高校	具体的な調査方法の立案、調査スケジュールの決定、関係機関との調整
8/9 ~ 10/31	②実践活動本番	長浜高校・長浜港湾緑地	長浜ゴミ0プロジェクト(長浜港湾緑地での、のぼり旗によるゴミの量削減活動)の実施
8/16 ~ 8/20	②実践活動本番	長浜高校	のぼり旗のデザイン作成、イベントチラシの作成、調査用紙の作成
9/1 ~ 11/30	②実践活動本番	長浜高校・長浜商店街・大洲市内	大洲ゴミ0プロジェクト(愛媛県民対象の、のぼり旗によるゴミの量削減活動)の実施
11/18 ~ 11/30	③事後打合せ・報告会等	長浜高校	調査データの集約・分析と実践活動報告書の作成